

平成30年度第1回東京都健康推進プラン21(第二次)推進会議中間評価部会における主な御意見一覧  
(平成30年5月14日開催)

番号	分野	御意見
1	全体 (評価基準)	評価に当たっては、 <b>一定程度の考え方の整理</b> が必要ではないか。
2	全体 (施策・方向性)	目標・枠組みは変えないにしても、施策の展開の際には、戦略的に <b>ライフステージごとの分析</b> を加えてもいいのではないか。この年齢層にアプローチするとより目標達成が早くなるなどの視点を。
3		施策展開としてどのようなアプローチしていくのかは、 <b>エビデンスに基づく</b> べきではないか。
4		施策に反映させるためにも、継続的に取れるデータを使って指標分析してほしい。
5	健康格差 (評価方法)	最低自治体の伸びだけでなく、 <b>他の自治体の変化量</b> も踏まえて評価すべきではないか。
6		標準偏差も大事だが、(平均値の影響を受けない) <b>回帰分析を使った指標</b> もある。
7		健康寿命の延伸幅について、 <b>最大自治体の数値と最小自治体の数値を指標</b> にしてみてもどうか。
8	健康格差 (施策・方向性)	単に値を示すだけでは、区市町村は何をしたらいいのかわからない。都が各種データを集約・整理等したうえで分析・課題抽出して、区市町村に再配布するといった支援もあるのではないか。
9	がん	がんの死亡率は全体的に改善傾向だが、女性の大腸がん・肺がんだけは横ばいである。報告書でデータを示すときには、このような傾向についても表示してもらえれば、どこにフォーカスすべきかがわかりやすくなる。
10	休養	ライフステージ、ターゲットを絞るのであれば、 <b>年齢階層別に分けた分析</b> をしたうえで、施策展開するのが効果的ではないか。
11	こころの健康	ひきこもりなどのアウトリーチが効かない人への対策として、 <b>ITを通じた情報発信</b> をしてみてもどうか。
12	高齢者の健康	データ分析の際には、区市町村の「生活圏域ニーズ調査」や介護保険関係データを活用してみてもどうか。
13	社会環境整備	健康づくりに具体的な基準を設けて取り組んでいる自治体の数や割合も指標になり得るのではないか。